

2月5日 2年生国語「くらべて つたえよう(せつめいする文しょうを書 く)」～低学年でも「学びを委ねる」チャレンジしています編

以前から何度か主体的な学びの低学年実践も紹介していますが、今回はロイロノートも活用した学びの仕組みづくりの紹介です。

① 学びの見通しを“子どもに返している”

本実践では、

- 学びの地図(学習の手引き)
- 学びの足あと
- ふりかえり

をロイロノート上で一体的に扱い、「今、何をしているのか」「次に何をすればよいのか」が、子ども自身に分かる構造をつくっています。

雑な字ですいません(;^_^A

The screenshot shows a mobile application interface with a sidebar on the left and a main content area on the right. The sidebar lists various categories, and the main area displays a list of notes. Red handwritten annotations are present throughout the interface.

Handwritten Annotations:

- 教科や活動ごとのフォルダ (Red bracket on the sidebar)
- いろいろな学習のふりかえりがたまっていく (Red text above the first note)
- ふりかえり(くらべてつたえよう) (Red circle around the first note title)
- 学習の手引き (Red text next to the second note)
- デジタルの個人ノートが入っています (Red text next to the third note)

Notes List:

Title	Date
ふりかえり(くらべてつたえよう)	2026年2月5日(木) 午前11:11
p.96-101 くらべて つたえよう (学びの地図)	2026年2月5日(木) 午前10:50
1月29日 学びのあしあと (p.94-95)	2026年1月29日(土) 午前10:50
1月29日 p.94-95 同じところ ちがうところ	2026年1月30日(日) 午前8:43
1月28日 はんたいのいみのことば	2026年1月28日(水) 午前10:24
1月26日 自分であなのやくわりを書こう	2026年1月27日(火) 午後9:58
1月26日 自分であなのやくわりを書こう(しりょう)	2026年1月26日(月) 午前9:08

◆学びの地図【学習の手引き】

子どもたちが学んでいく手順は教科書にのっています。それを元に子どもが迷わないようにていねいに提示されています。

2年1組 / p.96-101 くらべて つたえよう (学びの)

① つたえることを きめる

② つたえることを せりりしよう

③ 文しょうを 書く

④ 書いた文しょうを 読み合う (こうりゅうタイム)

⑤ ふりかえりを書こう

◆学びの足あと(子どものノート)

ここにはデジタルで個人ノートのような形で学びがたまっていっています。学習した時の板書が入っているのがまたいいですね！

1月29日 p.94

	雨	雪
どこから ふるか		
色		
たくさん ふると		
いつ ふるか		
さわると どうか		

	はし	スプーン
形		
つかう とき		
つかう 数		
つかい 方		
つかう りょうり		

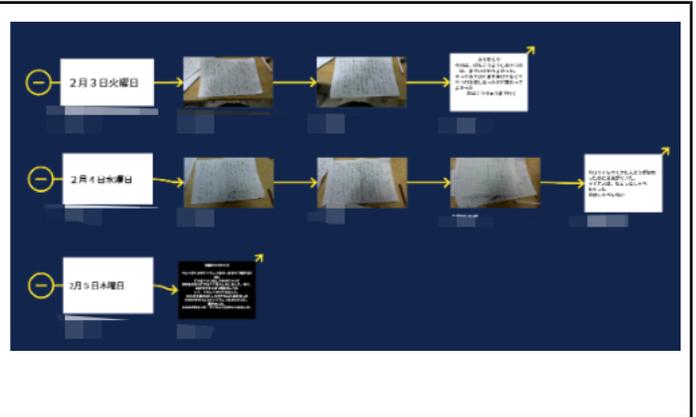
① 【同じところ】と【ちがうところ】を ひょうに せりりしよう。
ア：雨と雪
イ：はし・スプーン

② ほかにも いているものを さがして ひょうを 作ってみよう

③ 友だちとこうりゅう → ふりかえりを書く

◆ふりかえり

いろんな教科の学びの「ふりかえり」がここにたまっていきます。
教科の枠組みを超えて、自分の学び方がレベルアップして行けそうです。



低学年では教師主導になりがちな学習過程を、
「教師が管理する学び」から「子どもが自分のペースで確認しながら進める学び」へ
転換している点が大きな価値だと思います。

②「選ぶ・戻る・比べる」が自然に起きている

学びの地図をもとに、

- どこから取り組むか
- もう一度戻るか
- 友だちの表現と比べるか

を子どもが判断しています。



これは単なるICT活用ではなく、
自己調整の芽(見通す・振り返る・修正する)を2年生段階から育てている段階です。

特に、

- 書いた文章を読み合う時間(交流タイム)
- ふりかえりを言語化して残す活動(ふりかえりタイム)

が、思考を一度「立ち止まらせる」仕組みとしてポイントだと

もちろん、すべての時間でやることは難しいと思います。
れるといいですね。



できるところからや

③ 表現が「点」ではなく「軌跡」として残る

こうやってロイロノートはフォルダごとに見返しやすい仕様になっています。
作品をその場限りにせず、

- 学びの足あと
- ふりかえり
- 過去の自分のノート・学び

がロイロノート上で蓄積していることで、
「できた／できない」ではなく、「どう変わってきたか」が見える仕組みになっています。

これは、評価の観点でも、テストの結果だけでなく「思考・判断・表現」の形成的評価の材料として活用でき



そうですね。

④ 校内全体へのメッセージ

「低学年だから、委ねるのは難しい」とよく聞きます。

でも、そんなことはない！と本校の実践を見ていると断言できますよね。

そんな無意識の前提を、仕組みと支援でやさしく乗り越えている

- 子どもに委ねる
- でも、放任しない

- 学びの道筋は、教師が丁寧につくる

という、これからの授業づくりの大切なヒントが詰まっています。

さいごに、この写真。



何も目新しいことのない、教室では日常の一コマ。

1年生のとき担任して、あまり自分から声掛けしたり、関わりをもったりすることが少なかったこの子が、授業中、自分から「こうりゅう、やろう！」と何人もの子に声掛けする姿を見て、おおお！！と思って、撮りました。

担任のみなさん、たくさんの業務もあって溺れそうになることもあるかと思いますが、こうした子どものキラリと光る成長の瞬間は、私たちの最大サイコーのごほうびですよね！！

ありがとうございました。